



製函機のスペシャリスト

株式会社 新幸機械製作所

代表取締役社長 塚崎 忠弘 氏

昭和9年、活版印刷機製造業として産声をあげた同社。戦後は特殊印刷機へと事業を拡張し、ゴム凸版によるアニリン印刷、いまで言うフレキソ印刷方式による印刷機開発に着手。製袋加工機までを自社開発し、アイスキャンディーの包装紙などの印刷・加工で実績をあげた。

その後、段ボールへの網点印刷の需要が高まったことを受け、昭和28年にこれまでの技術を応用した段ボール用フレキソ印刷機ユニットを完成させた。「包装資材として

の段ボールの需要は今後も減少することはない。これを如何に効率よく印刷し、加工するか我々の永遠のテーマ」と語る塚崎社長。その精神を受け継いだ段ボール製函機「シンコースーパーアルファ」とフレキソプリンター「シンコーハイプリンター」が現在の主力製品となっている。

同社の核となる技術は、製函加工の精度である。輸送の際、コンテナにきっちりと収まり、揺れても中の商品が動かないようなシビアな精度で加工できる同社の機械技術は、

連絡先

〒557-0063
 大阪市西成区南津守7-15-18
 電話 06-6661-7121 FAX 06-6657-2921
 e-mail info@shinkom.com
 URL http://www.shinkom.com/

国内特許24件、国内実用新案58件、海外特許12件、申請中41件という数字が裏付けている。その実績は世界にも広がり、製函精度への要求が高まる東南アジアなどを中心に輸出比率は3割程度にまで及ぶ。

また、1年半前に開発した検査装置の本格的な受注期を前にして、工場内はフル稼働状態だという。

塚崎社長は、昭和14年生まれの67歳。「新たな「幸」せが顧客、社員、会社に訪れることを願う3代目社長である。



受け継がれる枚葉印刷機製造技術

廣瀬鉄工株式会社

代表取締役社長 廣瀬 安宏 氏

大正10年、石版オフセット印刷機械製造業として創業。平版印刷機械の草分け的存在として、その後も自動機、2色機、4色機、シートグラビア印刷機など、多くの枚葉印刷機を世に送り出し、今年で85周年を迎える。

同社の転機は、昭和59年の水性ニスフレキソスポットコーターの開発。以来、UVニスコーター、グラビアコーターなど、幅広いコーティング装置の開発で大きな成長を遂げた。

さらに平成3年には、枚葉印刷検査機を発表。要求が高まる品質管理の救世主として

70台のセールスを記録し、現在でもコーティング装置と並ぶ同社の「柱」となっている。これら開発製品はすべて、オフセット枚葉印刷機の製造技術がベースとなっている。

「ものづくりが大好きなクリエイティブ集団」という社風をもつ同社が継続して注力してきたのは「新たな事業領域の開拓」。「我々の仕事は「かたち」が見えるため、すぐに模倣品が横行する。彼らがコピー製品を製造しているうちに、我々は次の新しい物を作っていかなければ生き残れない。そのための

情報収集は同社が最も力を入れている部分」（廣瀬社長）

直近の新たな展開として、複数の製紙メーカーから枚葉印刷検査機を受注。印刷物検査における実績が評価され、紙の汚れやシワ、穴などの検査で採用されている。

大日本スクリーン製造で製版機器の技術、営業を経験した後、平成6年、3代目として家業の舵取り役を任された廣瀬社長。今後オフセット印刷機の製造技術をベースに「新しいものづくり」にチャレンジしていく。

連絡先

〒537-0021
 大阪市東成区東中本3-12-31
 電話 06-6976-0951 FAX 06-6976-0952
 e-mail hiroset@skyblue.ocn.ne.jp
 URL http://www.hirosetec.co.jp/



多年の実績に全ゆる紙加工技術を蓄積

平和機械株式会社

代表取締役 梶 健治郎 氏

米国の箔押・盛上げ印刷機械メーカーと提携し、多年に亘って箔押機や全自動荷札製造機、リング製本機など、各種の紙工関連機械を製造・販売している。

同社の創業は終戦翌年の昭和21年5月のこと。先代又三郎氏が戦火にさらされた機械の修理を業務として起業したことに社歴は始まる。その後、26年に株式会社化して活版印刷機や断裁機の製造を手がけるが同業者の復興などから競争を避けて同社は簞袋や荷札製造機などの特殊分野へ進出し

て企業基盤を築いた。とくに荷札製造機では原紙の供給から目玉を作って貼り、その上にハトメ加工、針金を通して捻るなど多工程の全自動化を実現、昭和38年には7千枚の能力に上げ、万一のトラブルを自動表示するといった当時としては画期的技術としてドルッパでも大きな反響を呼び輸出に。今日でも同社の主力製品のひとつである。

二代目現社長に引き継がれて30年程になる。手作業の自動化などで高生産性を求める中で、作れば売れた時代から環境は一

変した現在、多様化し続けるニーズに同社は設計変更など、お客の生産環境を重視した製品提供にも重きを置いている。

平成8年、現在地に本社工場を建設して移転。常に人と物の係りを考え、お客の要望に「いつもイエスと言えるために技術研鑽に努めていきたい」と梶社長は、厳しい競争社会の中での考えをこう語る。モノづくりの原点でもある素材一つにもこだわり、夢やアイデアを形にする喜びを通して業界発展に貢献していきたいということだ。

連絡先

〒577-0067
 東大阪市高井田西2-6-18
 電話 06-6781-9986 FAX 06-6781-9996
 e-mail heiwa@wf7.so-net.ne.jp
 URL http://www.heiwakikai.com